

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 新林業架線技術者育成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林整備課 担い手企画係 電話番号：058-272-1111 (内 3198)

E-mail: c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,400 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	2,400	1,083	0	0	0	0	0	0	1,317
決定額	2,400	1,083	0	0	0	0	0	0	1,317

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

急峻な地形が多い本県において、路網整備が比較的困難な場所においても施業が可能な「架線集材技術」は効率的な施業を行う上で必要な技術である。

そのため、林業架線作業者の育成及び架線集材技術の指導を実施することで皆伐・再造林を推進する。

(2) 事業内容

① 林業架線作業主任者免許規程に基づく講習の実施

主伐・再造林を推進していくために必要な架線集材技術を持ち、現場の安全を担う者(林業架線作業主任者)を育成するため、免許規程に基づく林業架線作業主任者講習を実施とともに、現場指導のフォローアップを行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1/2 (林業・木材産成長産業化促進対策交付金)

県 1/2 (一般財源)

架線集材技術は今後、主伐・再造林を効率的に進めていくうえで必要な技術であり、その技術の取得を促進するために県が講習及び指導を行うことは妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	960	実技講師謝礼
旅費	215	講師費用弁償、業務旅費
需用費	833	講習用資材費、燃料費
役務費	46	郵便料、保険料
備品購入費	190	講習用資材
修繕料	112	実技講習使用機材用
負担金	44	特別教育受講料
合計	2,400	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

・免許規程に基づく講習の実施県 16 県 (R2 時点)

(2) 事業主体及びその妥当性

<事業主体> 県

<妥当性> 林業架線作業主任者免許規程に基づく講習は、都道府県知事、森林管理局長又は林業・木材製造業労働災害防止協会会長が実施する必要があるため、県が実施することは妥当

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 架線集材技術を持つ森林技術者を育成することで、県内の素材生産量を令和8年度までに650千m³まで増やします。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
						%
① 素材生産量 (千m ³)	576	576	600	600	650	%
②	/	/	/	/	/	%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 林業架線作業主任者講習を実施し、免許を受けることができる者を10名養成した。
令和3年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	<p>年間の素材生産量 万m³をめざすべく、急傾斜地での木材生産を活発化するため、「架線集材技術」の普及推進を進めており、林業架線作業主任者の養成は、必要不可欠である。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>令和2年度は10人を育成した。育成者は、林業架線技術を持つ者として現場で活躍している。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	<p>学科、実技をそれぞれ集中的に実施するカリキュラムとしており、効率化が図られている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 主伐・再造林を推進するため、森林技術者における架線集材技術のさらなる向上を図る必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 主伐・再造林を推進するため、引き続き急傾斜地での木材生産に適した架線集材の普及と技術者育成を積極的に進める。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	